

未来の風をつかみ、大きく羽ばたけ

The University of Kitakyushu Information SEIRAN

発行日/2011年9月9日 発行元/北九州市立大学広報入試課

Seiran

青嵐

Vol.25

公立大学法人
北九州市立大学 学報

題字：阿南 惟正 前理事長筆

TOPICS

震災への取り組み

理事長・学長就任あいさつ

第2期中期計画
入学式
サークル活動の結果
北九州看板息子
就職・入試情報
教員人事・会議開催

特集

ひびきのキャンパス10周年

次世代への希望と前進

龍学部長インタビュー

理事長就任あいさつ

理事長 石原 進

平成23年4月1日付けで、初代理事長の阿南惟正氏の後任として、理事長に就任いたしました。

私は、昭和44年に旧国鉄に入社し、現在、JR九州の会長の職にあります。これまでの経験を生かしながら、北九州市立大学をより一層魅力ある大学にしていきたいと考えています。

現在、大学をとりまく環境は、非常に厳しい状況にあるとともに、大きく変化しております。

一つは、学生数の激減による大学間競争の激化です。今や大学全入時代に突入り、私立大学では定員割れが続出しております。この流れは、いずれ国公立大学にも及んでくるものと思われます。

もう一つは、グローバル化の進展です。人、モノ、情報がダイナミックに世界を駆け巡っております。特に、中国・インドをはじめとしたアジア諸国の経済発展は著しく、世界経済の中心が欧米からアジアに移ったとさえ言えます。ただし、これは除く日本であり、日本は失われた20年といわれる厳しい状況にあります。

これから、北九州市立大学が日本の高等教育機関として生き残っていくとともに、地域や国家に貢献するためには、本学が特色ある大学にならなければなりません。

そのために、グローバルに活躍できる優れた人材の育成と、北九州市が最も力を入れている「環境」の分野の教育・研究において、世界をリードする大学に本学をしていきたいと考えております。



学長就任あいさつ

学長 近藤 倫明

平成23年4月1日付けで、本学の第13代の学長として就任いたしました。今年3月末に任期満了にともない退任された矢田俊文前学長を引継ぎ、平成27年3月末までの4年間学長を務めます。これまで、平成17年の公立大学法人化後、翌平成18年4月から5年間、矢田前学長の下で副学長として大学運営に携わってきました。

大学は、法人化以後の第1期中期計画の6年間で多くの改革を実施し、成果をあげ、社会的評価を一段と高めています。今年4月から新たに始まった第2期中期計画では、「地域に根差し、時代をリードする人材の育成と知の創造」をテーマに掲げ、大学の存在感をこれまで以上に高め、様々な分野で「選ばれる大学」を目指します。

平成28年度までの6年間の第2期中期計画では70項目の施策を実施します。教育においては、社会を生き抜く力を備え、地域・社会をリードする人材の育成を目指し教育の質の向上を図ります。研究においては、地域やアジアの文化・社会に関する研究の重点化と、時代をリードする環境技術の開発に取り組み、その研究成果を社会に還元します。地域貢献においては、市民と大学が手を携えて、大学が息吹く、我が街への貢献を進めます。国際交流では、異文化が交わるキャンパスを目指し、多様な国際化を推進します。経営においては、自主・自律し信頼される大学となるよう大学の運営体制を整備します。さらに、第2期中期計画の期間には、長年の課題である北方キャンパスの新図書館建築構想の具現化、そして平成28年度に創立70周年を迎える取り組みを進めます。

今年度すでに8つの新たなプロジェクトをスタートし、大学運営が進められています。新たな体制の下、選ばれる大学への質的成長期が始まっています。



青嵐

もくじ

The University of Kitakyushu Information SEIRAN vol.25

特集

ひびきのキャンパス10周年 次世代への希望と前進 — 龍学部長インタビュー …7・8

理事長・学長就任あいさつ ……………1

学生活動・サークル活動の結果 ……………5

第2期中期計画 ……………2

北九州看板息子 ……………6

平成23年度 入学式 ……………3

就職・入試情報 ……………9・10

TOPICS 震災への取り組み ……………4

教員人事・会議開催 ……………11

「地域に根ざし、時代をリードする人材の育成と知の創造」を目指して

第2期中期計画 (平成23年度～28年度)

今年4月より、『地域に根ざし、時代をリードする人材の育成と知の創造』を基本理念とする「第2期中期計画」がスタートしました。

第2期中期計画では、第1期の取り組みを維持・向上させつつ、

選ばれる大学への質的成長

プレゼンス(存在感)の向上

環境・地域・アジア

の3つをキーワードとして、教育・研究・社会貢献・管理運営のそれぞれの分野で全70施策に取り組むこととしています。

① 教育

学位授与方針等を明確にし、教育の質の向上に取り組むとともに、コミュニケーションスキルと問題解決力を兼ね備え、優れた語学能力を持つ人材、地域活動をリードする人材、環境技術に関する専門的な知識を持つ人材など、社会で活躍できる人材を養成します。

そのほか、大学院教育の充実や学生支援の充実も行います。

〈主な取り組み〉

- 学部等教育課程の再編
- 語学力に特に優れた人材の養成
- 環境人材の養成
- オフキャンパス活動による学生の社会的自立とインターンシップ等による就職支援

② 研究

環境分野での技術開発の促進、既存産業の高度化、次世代産業の創出につながる研究、地域やアジアの文化・社会に関する研究などを重点的に進めることで、独創的、先進的な研究成果を創出し、産学官の連携などを通じて社会に還元します。また、研究推進体制の整備や競争的研究資金の獲得など、大学の研究水準を総合的に高めます。

〈主な取り組み〉

- 「環境」「アジア」「地域」に関する研究拠点の形成
- (仮称)環境科学技術研究所の設置

中期計画

③ 社会貢献

地域社会との幅広い連携協力や地域課題への提言などを通じて、地域の活性化に貢献します。また、公開講座や社会人教育など、市民へ多様な学習機会を提供します。そのほか、国内外の大学などとの学術交流、人材育成、環境改善をはじめとした国際協力などを通して、地域の教育研究機能の高度化、アジアをはじめとする国際社会の発展に貢献します。

〈主な取り組み〉

- 生涯学習機会の提供(公開講座の充実、MBAセミナーの開催など)
- 交換留学の拡大、派遣留学の継続実施
- 大学間連携の推進
- JICAとの連携による環境改善協力など国際貢献活動の推進

④ 管理運営

人文・社会科学系、理工系からなる総合大学としての強みをいかした効率的な大学運営を実現します。また事務体制の強化や財務内容の改善、自己点検・評価、情報公開、大学認知度の向上、施設・設備の整備などに取り組みます。

〈主な取り組み〉

- 北方・ひびきの間の連携促進(相互の授業担当や共同研究の実施など)
- (仮称)認知度向上プロジェクトの設置
- 図書館など老朽化施設の整備計画の策定と基金の創設

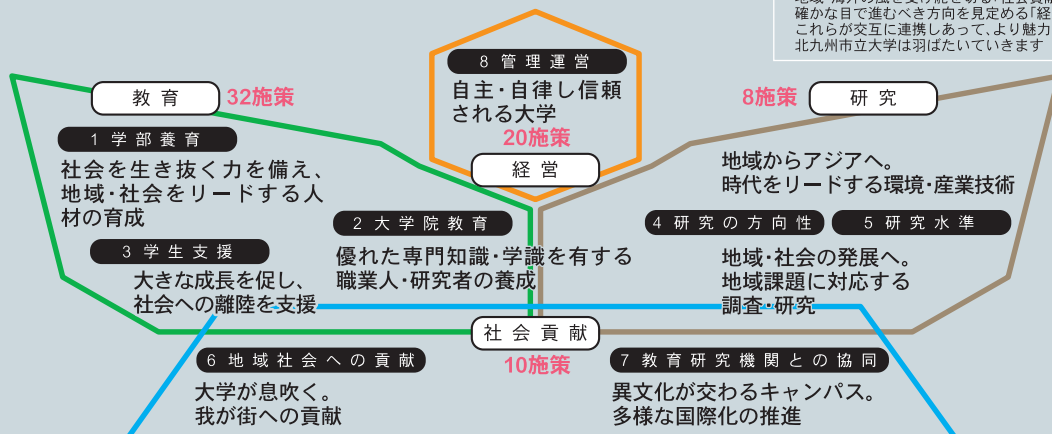
中期計画とは… 法律に従い設立団体の長(北九州市長)が定めた中期目標を実現するために策定するもの。

北の翼(概念図)

計画期間 平成23年度～28年度(6年間)
実施施策 70施策(8つの柱・テーマ)

【北の翼】

大学の原点である「教育」「研究」という両翼。地域・海外の風を受け舵を切る「社会貢献」とう尾翼。確かな目で進むべき方向を見定める「経営」という頭脳。これらが交互に連携しあって、より魅力ある大学を目指し、北九州市立大学は羽ばたいていきます



中期目標・中期計画 本学ホームページ <http://www.kitakyu-u.ac.jp/outline/mokuhyou-keikaku-02.html>

平成23年度 北九州市立大学入学式



平成23年度4月入学式 新たに1,631名の学生が入学!

4月5日(火)に北方キャンパスの体育館兼講堂において、平成23年度入学式が挙行され、新たに1,631名(学部生 1,438名、学院生 193名)の学生が入学してきました。

入学式では石原進理事長から、「目標と志を高く持ち、その実現に向かって積極的にチャレンジして欲しい」「積極的に

海外留学に挑戦し、語学や文化を実践的に学び、広い見識を身につけて欲しい」という言葉が贈られました。

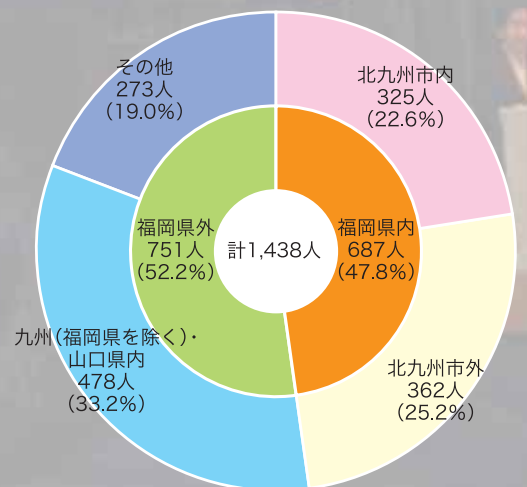
また近藤倫明学長からは、「勉強に真剣に取り組み学生生活を実り多いものにして欲しい」「強い意志を持って自らの未知なる世界に挑戦し、新たな時代をリードする人となるよう期待する」という式辞がありました。

◆入学者数・男女数 (学部生)

男子 女子

学部	学科	人数	男子 (%)	女子 (%)
外国語学部	英文学科	122	37(30.3%)	85(69.7%)
	中国学科	51	12(23.5%)	39(76.5%)
	国際関係学科	80	22(27.5%)	58(72.5%)
経済学部	経済学科	155	94(60.6%)	61(39.4%)
	経営情報学科	153	64(41.8%)	89(58.2%)
文学部	比較文化学科	153	26(17.0%)	127(83.0%)
	人間関係学科	87	18(20.7%)	69(79.3%)
法学部	法律学科	180	97(53.9%)	83(46.1%)
	政策科学科	80	54(67.5%)	26(32.5%)
地域創生学群	地域創生学類	105	40(38.1%)	65(61.9%)
国際環境工学部	エネルギー循環化学科	52	41(78.8%)	11(21.2%)
	機械システム工学科	47	45(95.7%)	2(4.3%)
	情報メディア工学科	75	63(84.0%)	12(16.0%)
	建築デザイン学科	50	30(60.0%)	20(40.0%)
	環境生命工学科	48	24(50.0%)	24(50.0%)
合計		1,438	667(46.4%)	771(53.6%)

◆出身地域別割合 (学部生)



本学では、東日本大震災被災地支援活動としてさまざまな取り組みを行っています。

あなたの心遣いは、きっと被災地で生かされます。

ボランティア活動に参加する場合 出席扱いとします(修学支援)

東北や関東地区などで、生活関連支援物資の配布や避難所での世話、がれきの撤去、児童・生徒に対する学習支援、その他必要な援助を行う場合、各学期につき1回連続した7日を限度として出席扱いとします。

また、その活動が授業科目と密接に関連すると担当教員が認めた場合、演習や授業の一環とされることがあります。

期間は、平成24年3月31日まで(期末定期試験中は除く)。

詳しくは▼北方キャンパス学生課964-4012

▼ひびきのキャンパス管理課695-3350

へ問い合わせを。

東日本大震災関連プロジェクト (プロジェクト421)

本学では、3月11日に東北地方を襲った東日本大震災を受けまして、「東日本大震災関連プロジェクト(通称;プロジェクト421)」を地域共生教育センターが中心となって立ち上げました。被災地、被災者の直面している状況を、可能な限り共感を持って把握するとともに、一人一人が大震災を受け止め、学生として、今何ができるか、何をすべきかを考えることを目的に、大学として組織的かつ継続的に取り組みます。現在の活動概要を以下に紹介します。

震災ボランティア派遣

全学から学生有志を募り、夏期休暇中の9月16~24日に震災ボランティアを南三陸町(宮城県)に派遣します。派遣にあたっては陸上自衛隊第40普通科連隊のご協力のもと、現地視察や勉強会を行い、被災地の状況に対応できる体制づくりを整えています。また、この派遣には北九州市立大学後援会から助成金を頂き、学生の活動費に充てています。

プロジェクト421ツアー

北九州市に避難されている被災者の方々に向けて、北九州市を知り、北九州市になじんでいただくため、7月24日にスペースワールド、8月20日に到津の森公園を楽しむ企画を開催しました。学生は子ども達と一緒に園内を回り、アテンドさせていただきました。今後は、大学祭での芋煮会や門司港レトロ地区のツアーを予定しています。

小学生応援うちわ

福島原発事故により懸念されている電力不足に向けて、イラストやメッセージを描いた「応援うちわ」を作成しました。制作にあたっては北方小学校と守恒小学校に協力していただいたほか、学園祭・紫陽祭でも来場者の方々に協力していただき、400本のうちわを釜石市に、500本のうちわを南三陸町へ届けました。

募金活動

プロジェクト421では組織的かつ継続的な募金活動を行っています。頂いた義援金は派遣地である南三陸町に義援金としてお渡します。ご協力いただける方は421Lab.にご連絡ください。

問い合わせ先:地域共生教育センター(2号館1階) TEL:093-964-4092



プロジェクト421ツアー



小学生応援うちわ

東日本大震災被災地支援 ボランティア活動報告

経済学部 経営情報学科 4年 佐野 雄飛

私は6月25日と26日の2日間、大学生協が主催する週末ボランティア活動に参加させていただきました。2日というとても短い間でしたが、多くの事を感じ、考えさせられました。機会を与えてくださった大学生協と、学生課の方々をはじめとした大学の協力に大変感謝しています。

現地では、主に側溝に詰まった泥出しの作業を行いました。泥は想像していたよりも重く、ヘドロの臭いは決して良いものではありませんでした。また、泥出しの際は長時間中腰の姿勢になるため、学生の私でも辛い作業でした。特に高齢者の多い被災地域では、苦勞が絶えないことが容易に想像できました。田畑には依然として車や船の残骸があり、崩れた民家は何軒も目の当たりにしました。九州ではまずない光景が、そこには当たり前のように広がっていました。

私が現地での活動を通して特に印象に残っていることが3点あります。

一つは、地区によって被害・復旧状況は大きく異なっており、簡単には『被災地』と一括りにできないということです。また、『被災地』は現地の方々にとっては『故郷』であり『我が家』だということを考えさせられました。

次に、現地の方々のあたたかさ。自宅が被害を受けているにも関わらず、私たちをあたたかく迎え入れ、共に生き生きと活動し、感謝の言葉を掛けてくださる現地の方々から、私たちも元気をもらえました。実際に現地に行ったことで、人と人とのつながり、挨拶や感謝の言葉を当たり前で掛け合うことの大切さを強く感じることができました。

最後は、私たち学生と大学生協の力強さです。参加者の想いやボランティア活動経験の有無はさまざまでしたが、皆それぞれ高い問題意識を持って参加し、作業やミーティングなど、二日間を通してエネルギーに満ち溢れていました。また、ボランティア活動を通して、協同作業や多くの組合員の参加など、大学生協には大きな力があることを実感しました。

現地は少しずつではありますが、着実に復興への道を歩んでいます。しかし、まだまだ求められることや物はたくさんあると感じました。それは若者の力であったり、募金や物資支援であったりさまざまです。ボランティア活動に参加し、被災地の現状を実際に見た私から皆さんにお願いしたいのは、“今、自分たちにできること”を考え、それを継続すること。そして、多くの仲間を巻き込むことです。皆さんのサポートが、東日本へ元氣や勇氣、希望を与えます。



THE UNIVERSITY OF ENJOY! U K ITAKYUSHU LIFE!

北九州市立大学には様々なサークル、学生活動があり、それぞれ活気に満ちた学生生活を楽しんでいます。そんなサークル活動や学生活動の成果をご紹介します。

軟式野球部

全国大会出場

本学の軟式野球部が、3月1日より開幕した九州学生軟式野球連盟春季大会(リーグ戦)にて、参加11チーム中、8勝2敗で福岡国際大学に次いで2位となり、今夏に開幕する全日本学生軟式野球選手権大会の出場代表チームとなりました。8月21日～25日に下関球場(山口県下関市)で行われた同選手権大会に出場した本学軟式野球部でしたが、惜しくも1回戦で敗れました。



剣道部

全国大会出場

5月7日に行われた全九州学生・女子学生剣道選手権大会(個人戦)にて本学地域創生学群3年生の竹森美寿々さんが三位入賞を果たし、女子部員として創部以来初の全日本女子学生剣道選手権大会への出場権を勝ち取りました。

7月2日、大阪府立体育館で行われた同選手権大会に出場した竹森さんは、健闘むなしく、2回戦で敗退しました。



ひびきの GPA 表彰

平成23年度ひびきのキャンパス成績優秀者表彰

国際環境工学部では右記の15名が表彰対象となり、6月15日(水)に表彰式が行われ、近藤学長から賞状と楯が授与されました。

表彰者名簿



学 科	受賞名	氏名
エネルギー循環化学科	最優秀賞	入佐 亜美
	優秀賞	田中 純奈 前川 拓司
機械システム工学科	最優秀賞	樋木 啓介
	優秀賞	村 総一郎 藤戸 孝一
情報メディア工学科	最優秀賞	篠原 裕美子
	優秀賞	カク ヨウ 川上 達也
建築デザイン学科	最優秀賞	上原 由梨香
	優秀賞	岩藤 妙美 高島 英朗
環境生命工学科	最優秀賞	菊地 明日香
	優秀賞	古川 寛佳 坂下 瑞葉

第10回漢語橋世界大学生中国語コンテスト出場

本学外国語学部中国学科3年生の松森美樹さんは、5月28日に本学にて開催された「2011年度五星奨〜中国語コンテスト」のスピーチの部にて、最優秀賞を受賞しました。その結果、「第10回漢語橋世界大学生中国語コンテスト」の出場権を獲得し、世界大会出場を果たしました。



第10回漢語橋世界大学生中国語コンテスト
期間：平成23年7月10日～8月8日
審査：予選(参加者120名)を実施し、決勝進出者30名で優勝を争う。

学研都市合同チーム『Hibikino-Musashi』

ロボカップジャパンオープン4連覇！ 世界大会ベスト6！

『Hibikino-Musashi』は、北九州学術研究都市で北九州市立大学と九州工業大学の学生が中心となって結成し、(財)北九州産業学術推進機構の協力のもと、ロボカップサッカーリーグに参加しているロボットチームです。

平成23年5月3日から開催された「ロボカップジャパンオープン2011大阪」では、中型リーグで優勝し、大会4連覇を達成しました。また、ロボット製作の技術が高く評価され、「日本ロボット学会特別賞」を受賞しました。さらに、同年7月5日からトルコのイスタンブールで開催された「ロボカップ世界大会2011」では、各国から決戦を勝ち抜いてきた強豪チームを相手に健闘し、本戦にて6位、テクニカルチャレンジにて1位、フリーチャレンジにて6位という好成績を残しました。

『Hibikino-Musashi』の今後の活躍にご期待ください！



ロボカップサッカー[中型リーグ]とは？

縦横50cm未満の自律型ロボット6台でチームを構成し、18x12m大のフィールドでサッカーの試合をするリーグです。試合時間は15分ハーフ。多くのチームが360度見渡せるカメラを搭載し、ロボット自身が自分とボールの位置をすばやく判断して動きます

テクニカルチャレンジとは？

2台のロボットが連携し、通常の色と異なるボールをキャッチ、パス、ドリブル、シュートするまでの技術を競うものです。

今回世界一となり、このチームの安定した高い技術力を証明しました。

北九州看板息子に本学の在学生在が選ばれました！

「北九州看板娘・看板息子」は、わっしょい百万夏まつり振興会が、平成19年から、わっしょい百万夏まつりの開催にあわせ、北九州市を広くアピールできるシンボルとして公募した親善大使です。1年間、市内外の多彩な催しに参加し、北九州市をPRする活動を行っていきます。その、「北九州看板娘・看板息子」の一人に選ばれた大西浩太さんは本学の在生です。

選考にあたっては、北九州市の魅力を理解し素晴らしさをアピールできる「看板力」を重視しています。



地域創生学群 地域創生学類1年 大西 浩太



「北九州看板息子」このフレーズを聞いたとき、これは自分になるしかない！と直感的に感じました。というのも実は私は昨年まで福岡市内の大学に通っており、今年の春に北九州市立大学に入学し直しました。それは学びたいことが変わったというのがありますが、肌の合うこの北九州に帰って来たいという気持ちが強かったからです。生まれ育ったまち北九州でまた一から頑張ろう！と意気込んでいたタイミングで知った、この「北九州看板息子」。なにか特別なものを感じざるを得ませんでした。

北九州市立大学に入学し、今は地域創生学群の実習で地域のいろんな活動に携わらせていただいています。八幡東区の高槻、そして猪倉町で農業やまちづくりを学ばせていただいたり、FMKITAQでのラジオ実習を通して「北九州と映画」について調べたりと、自分の知らなかった北九州の魅力をたくさん知る良い機会となっています。

北九州看板息子に選ばれて、今はマナー研修や話し方研修、ウォーキングレッスンや、ホスピタリティ研修、ダンスレッスンなど様々な研修を受けさせていただいています。慣れないことに右往左往する日々が続いていますが、北九州市民の代表として恥ずかしくないようしっかり学びたいです。また、北九州看板息子として自分自身が北九州の魅力をもっと知り、それを多くの人にしっかりと伝えられるようになりたいです。そしてみんなから愛される看板息子になれたらいいと思います。

これから1年間北九州看板息子として黒一点、北九州のPRを頑張っていきたいと思いますので応援よろしくをお願いします！

ひびきのキャンパス10周年



特集 龍学部長インタビュー

次世代への希望と前進

北九州市立大学「ひびきのキャンパス」10周年を迎えて



平成13年4月、ひびきのキャンパス内に開設された「国際環境工学部」。エネルギー・環境問題について社会に貢献できる技術者・研究者を育成する、という理念のもとにスタートし、現在は5学科を抱えるまでに。また卒業生も1,714名を数え、国内外を問わず活躍の場を広げています。

今回の特集では、開設当初から学部を知る龍学部長に、これまでの10年を振り返るとともに、「国際環境工学部」の現在の取り組みと未来に向けてのお話を伺いました。

北九州市立大学 国際環境工学部長
大学院国際環境工学研究科長(兼務)

龍 有二

今年は「国際環境工学部」開設10年という 節目の年、いま一度年月を振り返ってみて、 どういう感想をお持ちですか

あつという間の10年でした。歩み始めたばかりで沿革を語るにはまだまだ(笑)。学部をアピールする点においては、工学部で国際的なことと環境についてしっかり学ぶことができる、というわかりやすさが大きかったような気がします。学生にも教員にとっても「何をする、何ができる学部なのか」という明確な意識は、先の目標値を見据える際の重要なポイントになっているようです。

「国際環境工学部」のユニークな 教育・人材育成プログラムとは

国際環境工学部の人材育成プログラムのなかでも代表的な科目は、1年次の「環境問題事例研究」です。学科を横断した1チーム約10名(全25チーム)の学生が、環境問題に関するテーマをそれぞれが設定し、1年がかりで自主的に調査・研究を行うのです。例えばレジ袋の削減・たばこの分煙化・北九州の農業再生など、テーマもさまざまです。

学生が主体となって進めていくという研究スタイルは、2年次からの取り組みに変化があるだけでなく、「環境マインド」を持った人物になってほしい、という人材形成の面でも成果をあげています。

さらに昨年度からは、文部科学省の「大学生の就業力育成支援事業」に取り組み、キャリア教育の充実と地域との交流・連携を図ったプログラムに着手しました。就職ガイダンス的なものではなく、低学年から社会性、積極性のほかコミュニケーション力をつけるためのもので、自らが動くことで社会的・職業的自立につながる力を培っています。

工学の専門的知識をもつ技術者というだけでなく、前出の

「環境マインド」も併せ持ったバランスのよい人材を社会にという考え方。これは国際環境工学部の大切な核になっていきますね。

「国際環境工学部」もしくは「ひびきのキャンパス」 についての課題は

ひびきのキャンパスは教育研究環境の面で充実した学術研究都市の中にあります。このため学生が学研都市内に留まり過ぎる傾向があります。このようなオン・キャンパスの活動だけでなく、エリアから出て何かをするというオフ・キャンパスの活動をもっと積極的に行ってほしいと考えています。

学部でいえば北方キャンパスの学生と一緒に理系と文系の考え方で何かを生み出したり、大学院では九州工業大学や早稲田大学との連携を行ったりするなど、もっと交流を深めてほしいと願っています。大学院の進学率UPと魅力ある大学院づくりというのも急務な課題です。履修モデルやカリキュラムを見直して、学生の意識のベクトルを引き上げていく予定です。

また、国際環境工学部は北九州地域の産業界との連携を進めており、企業との共同研究や受託研究も成果をあげています。今後は就職という点においても地元の企業とのマッチングをより進めていきたいと思っています。

未来に向けてのビジョンについて お教えてください

大学や学部の使命は10~20年で変わるものではないと思います。これまでの10年間は創生期ならこれからの10年は成長・発展期。学部が開設された時の目的や理念を忘れることなく、今後も国際的な活躍が望め、環境に対する深い認識をもった人材を育成する学部でありたいと思っています。

文科省(22年度)大学生の就業力育成支援事業に選定!

文科省の選定(平成22年度から26年度まで)を受けた取り組みは「地域教育及び産業との連携による人材育成」事業。これは、専門技術者を目指す学生に対し、社会的・職業的自立につながる就業力を養うため、教育課程やキャリア支援の充実を図るとともに、地域に根差す「環境・ものづくり産業」についての理解を深化させ、企業や教育機関等の地域社会と連携した就業実践を行うものです。

■地域ものづくり交流センターの設置・運営

就業力育成支援事業の一環として地域社会・企業・教育機関と連携した「地域ものづくり交流センター」を設置し、就業実践の窓口としてもものづくりに必要な知識と技術・感性を体験的に修得する機会を提供します。



自分たちが設定したテーマについて活発な意見交換を行っています。

実践力を身につける環境問題事例研究!

環境問題事例研究は、国際環境工学部における環境教育プログラムの中核となる科目で、1年次の必修科目となっています。

1チーム約10名の学生(全25チーム)が環境問題に関するテーマを自ら設定して自主的に調査研究を行う設計型授業です。

環境に関する知識の理解だけでなく、調査研究の過程を通して、俯瞰力や課題抽出力、コミュニケーション力、提案力等を習得することを目指しています。

平成16年度に文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)」に、平成20年度には「質の高い大学教育推進プログラム(教育GP)」に採択されています。



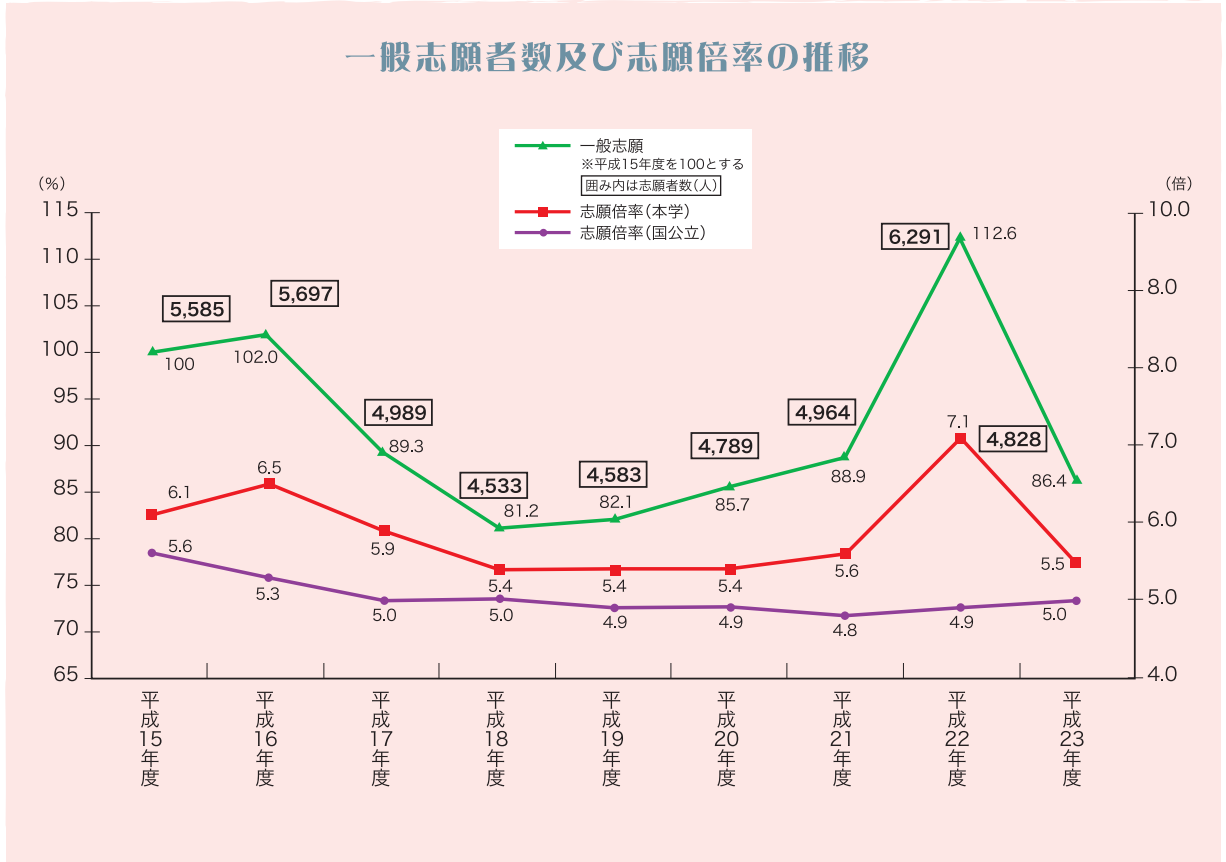
就業力を養うため、ボランティアとして小学校での理科実験の補助を行っています。



最近の入試の状況

1.平成23年度入試結果について

平成23年度一般選抜試験の志願者数・志願倍率は4,828人・5.5倍と平成22年度の6,291人・7.1倍を下回るという結果となりました。平成19年度以降4年連続で増加していましたが、平成22年度、大幅に増加した反動(隔年現象)と考えられています。



2.平成24年度入試の変更点について

平成24年度入試から、次の点が変更されます。詳しくは、入学者選抜要項をご覧ください。

【大学入試センター試験の変更】

①大学入試センター試験の「社会」の出題科目に「倫理・政治経済」が追加されます。

【地歴・公民、理科で採用対象を変更】

②大学入試センター試験の変更に伴い、地理歴史・公民および理科を2科目選択する場合の取り扱いについて、採用対象となる科目に変更があります。

【英米学科でもAO入試を開始】

③外国語学部英米学科にAO入試(募集人員10人)を導入します。それに伴い、地域推薦の募集人員が、17人から7人になります。

平成24年度入試スケジュール

選抜試験名称	実施学部・学群等	出願期間	試験日
AO入試	外国語学部英米学科 地域創生学群	平成23年9月5日(月)～9月9日(金)	1次選考 平成23年10月2日(日)
			2次選考 平成23年10月23日(日)
推薦入試	外国語学部、経済学部、文学部、法学部、 国際環境工学部	平成23年11月1日(火)～11月7日(月)	平成23年11月20日(日)
一般選抜 前期日程	経済学部、文学部、国際環境工学部	平成24年1月23日(月)～2月1日(水)	平成24年2月25日(土)
	外国語学部、法学部、地域創生学群(1日目)		平成24年2月26日(日)
	地域創生学群(2日目)		平成24年2月27日(月)
一般選抜 後期日程	外国語学部、経済学部、文学部、法学部、 国際環境工学部		平成24年3月12日(月)

平成22年度卒業生の就職状況については、引き続き景気低迷の影響により企業の採用数が減り、全国的に就職決定率(※2)が前年度を下回っている状況です。

本学の平成22年度就職決定率は、91.4%となっており、前年比0.4ポイント減ではありますが、全国平均(91.1%)、九州地区(88.2%)の就職決定率を上回りました。

就職状況と実績

平成22年度就職状況

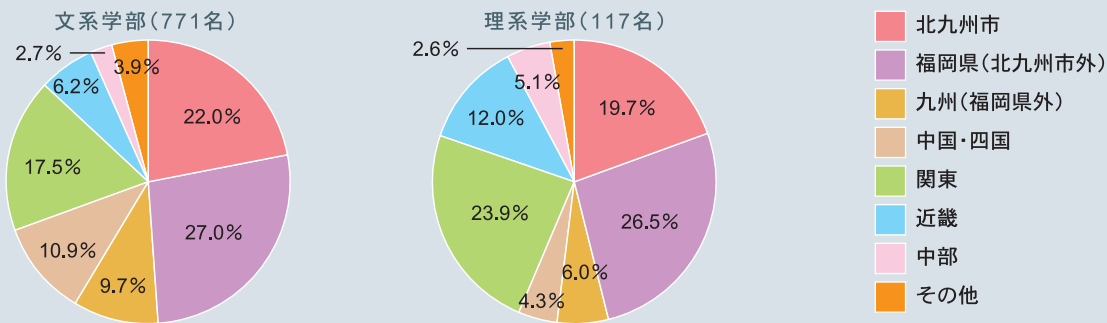
	外国語学部	経済学部	文学部	法学部	国際環境工学部	計
就職率 ^{※1}	71.6%	73.3%	67.5%	67.0%	88.0%	72.0%
就職決定率 ^{※2}	89.1%	91.0%	89.1%	94.7%	94.4%	91.4%

※1 就職率=就職者/大学院進学者を除いた卒業者 ※2 就職決定率=就職者/就職希望者

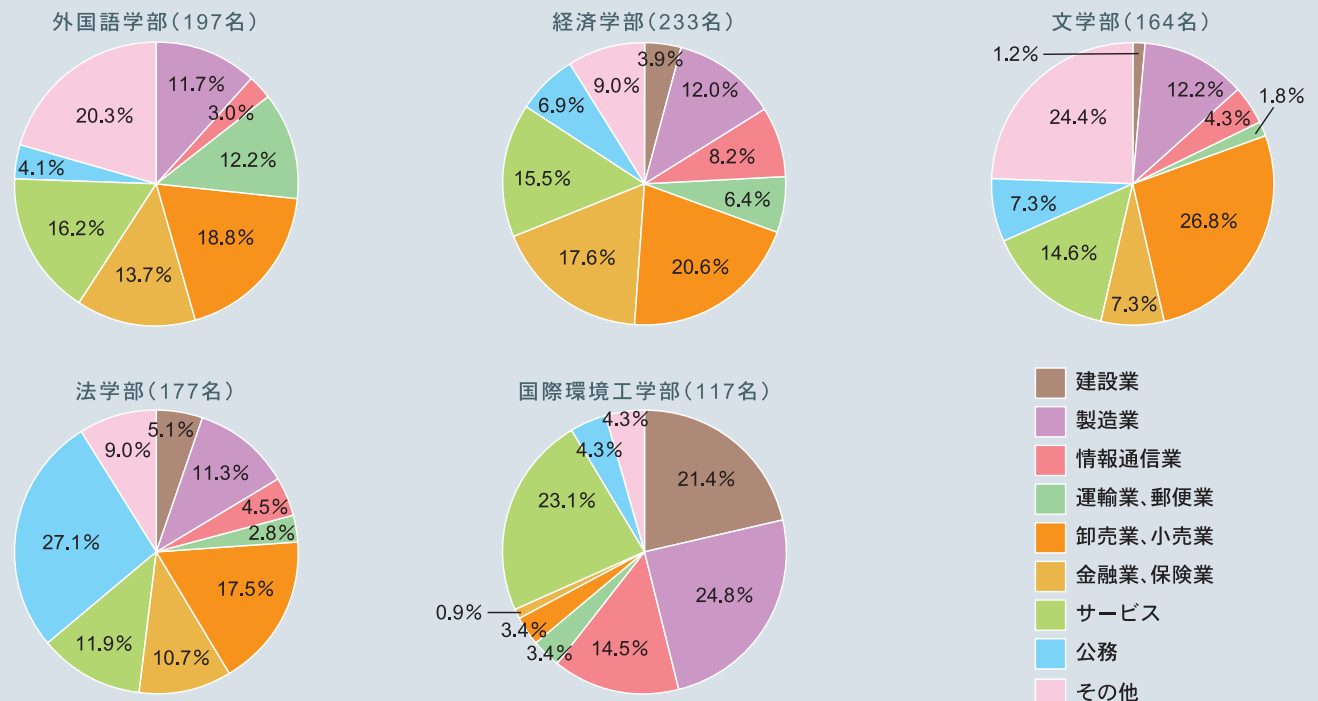
平成22年度学部別・男女別就職決定率

	外国語学部	経済学部	文学部	法学部	国際環境工学部	計
男	84.1%	90.2%	86.2%	94.7%	92.0%	90.9%
女	90.4%	92.0%	89.7%	94.5%	100.0%	91.7%
計	89.1%	91.0%	89.1%	94.7%	94.4%	91.4%

平成22年度地域別就職先内訳(文系・理系別)



平成22年度業種別就職先内訳(学部別)



Information

教員人事

[副学長](平成23年4月1日付)

岡本 博志(評価担当)

梶原 昭博(産学連携、ひびきのキャンパス担当)

木原 謙一(教育、研究、国際交流担当)

[学部長等](平成23年4月1日付)

外国語学部長

伊藤 健一

経済学部長

吉田 祐治

文学部長

松尾 太加志

法学部長

山本 光英

国際環境工学部長

龍 有二

地域創生学群長

伊野 憲治

大学院社会システム研究科長

横山 宏章

大学院マネジメント研究科長

王 効平

大学院国際環境工学研究科長(兼務)

龍 有二

学生部長

田部井世志子

教務部長

二宮 正人

都市政策研究所長

古賀 哲矢

国際教育交流センター長(兼務)

木原 謙一

学術情報総合センター長

八百 啓介

基盤教育センター長

漆原 朗子

入試広報センター長

柳井 雅人

キャリアセンター長(兼務)

岡本 博志

地域貢献室長(兼務)

梶原 昭博

評価室長(兼務)

岡本 博志

アジア文化社会研究センター長(兼務)

横山 宏章

地域共生教育センター長(兼務)

伊野 憲治

[退職](平成23年3月31日付)

外国語学部

佐藤 昭

経済学部

晴山 英夫、山崎 勇治

文学部

水本 弘文

法学部

落合 俊行、松田 憲忠、

国際環境工学部

國武 英生

大学院社会システム研究科

藤元 薫、松尾 一泰、福島 敏夫

大学院マネジメント研究科

木村 温人

基盤教育センター

齋藤 貞之

重信 幸彦

[採用](平成23年4月1日付)

○教授

大学院社会システム研究科

鄧 紅

○准教授

外国語学部

平田 直子

経済学部

畔津 憲司

文学部

福島 勲

基盤教育センター

Joseph J. Dilenschneider

○講師

国際環境工学部

小野 大輔

大学院マネジメント研究科

高橋 秀直

基盤教育センター

神原 ゆうこ

会議開催

第22回 経営審議会

平成23年6月16日(木)

【議案】

平成22年度計画に係る自己点検・評価報告書について

平成22年度財務諸表、決算報告書及び事業報告書について

第1期中期目標期間に係る自己点検書・評価報告書について

第1期中期目標期間に係る事業報告書について

学長選考会議委員の選出について

【報告】

第2期中期計画の取り組みについて

平成23年度入学者選抜試験の結果について

入試広報戦略・平成23年度入試広報計画について

平成22年度卒業生の就職状況について

教育研究審議会

第139回

平成23年4月12日(火)

・教員の採用について

・特任研究員の選考について

・平成22年度日本学生支援機構返還免除推薦候補者

(大学院)について

・第2期中期計画の進め方について

・学部等教育改善委員会の設置について

・学長選考会議委員の選出について

第140回

平成23年4月26日(火)

・学長選考会議委員の選出について

・教員の人事について

・名誉教授の称号授与について

・ICT整備検討会議の設置について

第141回

平成23年5月10日(火)

・特任研究員の選考について

・北方・ひびきの連携プロジェクト会議の

設置について

第142回

平成23年5月31日(火)

・教員の採用について

・大学院教育改善委員会の設置について

・環境教育ワーキング・グループ及び英語演習

ワーキング・グループの設置について

第143回

平成23年6月14日(火)

・教員の採用について

・特任研究員の選考について

・再任審査委員会の設置について

・リスクマネジメント検討委員会の設置について

・図書館整備検討委員会の設置について

・平成22年度事業に係る自己点検・評価について

・第1期中期目標に係る自己点検・評価について

・東日本大震災に係る

学生ボランティア活動について

第144回

平成23年6月28日(火)

・教員の人事について

・(仮称)環境科学技術研究所

設置準備委員会の設置について

・平成24年度一般選抜試験における

大学入試センター試験の選択科目の変更について

第145回

平成23年7月26日(火)

・教員の人事について

・特任教員及び特任研究員の選考について

・知的財産管理委員会の委員について

震災募金へのご協力
ありがとうございます。

646,973 円

(平成23年8月18日現在)